

退官講演 「子どものこころの社会実装研究、、、」 に添えて

金沢大学・精神行動科学、同・子どものこころの発達研究センター 教授 三邊義雄

私たちの研究内容は、一見して応用研究ですが、大学の研究の在り方には様々な意見があるようです。現在の政権下では、21世紀の日本の国力維持のための産学官連携研究を重視し、いわゆる「Society 5」構想に基づいた大型研究プロジェクトが盛んになっています。大学側から見ると、この構想による研究の集約化先鋭化に乗り遅れぬよう、産学官連携などの大型研究費獲得が実績評価の最優先項目となっています。特に、金沢大学は全国に現在16ある「国際的研究拠点型」大学に指定され、それだけ実績評価も厳しいものになっております。

幸い、私の在任中は、複数の文理融合・産学官共同・国際交流を特徴とする大型研究が切れることなく継続しました。また何よりもそれらの受け入れ先として、年間約1億円予算の「子どものこころの発達研究センター」および連合大学院小児発達学研究科が、私の就任と前後して設置されたのは非常に幸運でした。その際大変御尽力頂いた、遠山正彌先生（大阪大学）森則夫先生（浜松医科大学）東田陽博先生（金沢大学）など、多くの方々に改めて心よりお礼申し上げます。ちなみに大型研究費の定義は、年間1千万以上・期間5年以上で、教官クラスの雇用が一定期間可能であることです。やはり研究プロジェクトの推進には、通常の人員に加え、優秀人材をどれだけ多く上乘せ雇用できるかが成否の最大の鍵です。

私達に直接関連した大型研究費のロゴマークが、最終スライドに、順次提示されています。具体的には、左から革新的イノベーション創出プログラム(COI)、戦略的創造研究事業(CREST)、科学研究費特別推進研究(特推)、知的クラスター創造事業(後に、ほくりく健康クラスター創造事業に名称変更)、脳科学研究戦略推進プログラム(脳プロ)です。これら以外にも、東田教授代表の21世紀卓越研究拠点プログラム(COE)、教育学専門の大井学教授代表の科学技術と人間プログラム、哲学専門の柴田正良教授代表の若手研究者大航海プログラムなどの大型研究の御支援を受けました。関連大型研究の参画企業は、リコー社(東京都)、パナソニック社(大阪府)、PFU社(石川県)、アイメック社(ベルギー)などです。最終スライドにあるバンビプランとは、主に金沢大学の医学・看護学、特殊支援教育学、臨床心理学、ロボット工学、数学などの若手研究者からなる、文理融合研究チームです。自ら育児中の複数女性を含むこのチームは、この約10年間に北陸のおよそ数百家系に上る発達障害や通常の子供さんとその御家族の協力を得て膨大なデータ集積を行い、表題スライドにある「文理融合、産学官共同、国際交流による子どものこころの社会実装研究」を支えました。また「子どものこころ」というテーマが、「人間とは何か」や「人間らしくなるとは何か」という、幅広い学域の方の関心と呼ぶテーマに直結することを痛感しています。

精神的には(おそらく身体的にも)、ほぼ物体として生れ落ちて集団生活の中で就学するまでの数年間が、人生の最も重要な時期であることは間違いありません。この場を借りて関係の皆様方に改めて深くお礼申し上げますとともに、有為な若い世代の同志が楽しく厳しく精進され、さらに社会実装(社会に還元する)研究を推進されることを心より期待しています。